

平成28年度 第1回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 会議録

会議の概要

開催日時	平成28年10月26日(水) 13時30分から15時まで		
開催場所	多摩区役所1階 講堂		
出席者の氏名	委員 (50音順)	青木義明(多摩区食生活改善推進員連絡協議会) 有北いくこ(多摩区子ども総合支援連携会議) 江口勇次(生田地区社会福祉協議会) 大澤敏夫(菅地区社会福祉協議会) 岡本次郎(多摩区老人クラブ連合会) 川澄晶子(多摩区社会福祉協議会地域課) 木澤静雄(登戸地区社会福祉協議会) 柴原君江(田園調布学園大学名誉教授)	白石大樹(自立支援協議会) 菅野麻美(太陽の園地域包括支援センター) 中村健(多摩区医師会) 初田温子(区民委員) 原田知治(多摩区社会福祉協議会) 古谷欣治(多摩区町会連合会) (中野島地区社会福祉協議会) 森本千恵美(区民委員) 山口正芳(区民委員)
	事務局	齋藤俊啓(保健福祉センター所長) 塚本和秀(役所保健福祉センター副所長) 日向幸雄(企画課長) 田中勝彦(生涯学習支援課長)	森田博志(地域ケア推進課長) 新井久爾子(保育所等・地域連携課長) 久保田文夫(児童家庭課長) 清澤秀昭(高齢・障害課長)
	オブザーバー	中村孝也(区長) 稲葉信彦(副区長)	諏佐吉則(生田出張所長) 望月明弘(区民サービス部長)
欠席者	大津努(稲田地区社会福祉協議会) 清水伊都子(菅第1地区民生委員児童委員協議会) 吉田稔(多摩区商店街連合会) 石丸正行(道路公園センター所長)	太山和枝(地域みまもり支援センター担当部長) 小松英光(学校・地域連携課長) 曾我利江(地域支援担当係長) 池上洋未(地域支援担当係長)	
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 挨拶 3 委員紹介 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 多摩区支え合いのまちづくり推進会議の設置について (2) 地域福祉計画の進行管理について (3) その他 5 閉会 		
傍聴人の数	0名		
配布資料	資料1…座席表・名簿 資料2…多摩区支え合いのまちづくり推進会議の概要について 資料3…多摩区地域包括ケアシステム推進体制 資料4…多摩区支え合いのまちづくり推進会議運営要綱 資料5…スケジュール 資料6…地域福祉計画の進捗管理及び事業評価について 資料7…第4期多摩区地域福祉計画 事業管理シート 資料8…その他資料		
	【冊子】 ・第4期多摩区地域福祉計画 (完全版・概要版) ・川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン (概要版)		

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・会議公開のお知らせ ・傍聴者の報告 0人
中村区長	第1回支え合いのまちづくり推進会議 開会の挨拶
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の紹介及び出席状況 ・事務局の紹介及び出席状況 ・オブザーバーの紹介及び出席状況 ・資料の確認 ・柴原委員を座長とする案の提示
委員全員	異議なし
事務局	進行を柴原委員にお願いする。
議事（1） 多摩区支え合いのまちづくり推進会議の設置について	
事務局	【多摩区支え合いのまちづくり推進会議の設置について説明】
柴原座長	何か質問はあるか。
中村委員	<p>【資料2】の中に、本会議の目的が記載されており、【資料3】では、本会議での意見が「多摩区地域包括ケアシステム推進本部会議で共有され、更には、市地域包括ケアシステム推進本部とも共有されるようである。しかし、本会議において、具体的な目的が見えない。本会議で検討した内容が、次年度以降にどのような流れで、また、成果として区民に還元されていくのか説明が欲しい。</p>
事務局	<p>本会議の性格は、第1の目的として、多様な団体から代表として出席いただいている皆様との、意見交換や情報共有を行うことである。</p> <p>委員の皆様には、今後の区の地域包括ケアシステムの推進について、行政の取組や所属団体の取組等を本会議でお話いただき、意見交換・情報効果を行い、その内容を所属団体に持ち帰り、共有していただきたい。第2の目的として、本会議で挙げた意見を、今後の行政の取組や所属団体の取組に反映することである。</p> <p>つまり、本会議で何か具体的な取組を実施するものではない。</p>
柴原座長	行政や地域の取組について、委員と意見を共有し、各団体に戻すということであるのか。
山口委員	<p>これまで、行政の取組の説明を受け、実施結果について、適正であったか委員が意見を言う内容であったので、分かりやすかった。今回は、地域包括ケアシステムというものがどのようなものか見えない。地域で地域包括ケアシステムの取組の一環として、何か活動を行っているという話は聞いたことがない。地域包括ケアシステムが助け合いというものであれば、これまでも地域で様々な取組を実施している。</p>
事務局	<p>地域包括ケアシステムとは考え方であり、行動の位置付けの意味合いがある。自助・互助の考え方に基づき取組を整理する必要がある。それぞれの目的や役割について、効果等の考察を含めて、この場で意見交換をしていきたい。地域包括ケアシステムという言葉が先行しているが、実態はどのような状況であるか、今後の取組で整理していきたい、その中で、現在の取組について、皆様から意見をいただきたい。</p>

発言者	発言要旨
中村委員	<p>添付されている「認知症予防講座のチラシ」の裏面に、「地域包括ケアシステムとは？」と記載がある。誰もが住み慣れた地域や自ら望む場で安心して暮らし続けられることができる」と記載がある。これは、誰もが大切だと考えている。自助・互助・共助が大切なことであると。その為、様々な団体・専門機関・民間機関が地域包括ケアシステムに関わる取組を実施している。今後、互いを結び付けられれば、区の地域包括ケアシステムの答えが見えてくる。</p>
事務局	<p>本会議を立ち上げるにあたり、どのような位置付けで運営をしていくのが、事務局として検討してきた。中村委員の発言の通り、地域包括ケアシステムの具体的な形を提示するのは難しい。大切なのは、既に地域で必要と思われた方が様々な取組を行っており、新たな取組を始める方もいる。区職員も地域に出っていくことで、地域の様々な情報を得ている。行政としては、地域の良い取組を、他の地域の人にも知ってもらい、区内で広がりを持つことが大切と考えている。そのために、情報が地域に広く伝わる必要があり、本会議がその位置付けになるものと考えている。</p>
山口委員	<p>地域の取組をどのように展開するのか、また、その考え方がどのようなものなのかということか。地域包括ケアシステムという言葉は、行政が発している。話を聞くと、既に地域で行っている取組を展開していくということで、どのようにするのかの答えが聞けると思い期待していた。【資料2】に、本会議の目的が記載されているので、上手くいっているのかこの会議で確認することのようである。</p>
中村区長	<p>地域包括ケアシステムの言葉を聞いたことがあると思うが、実際にどのような取組を行うのか分かりにくい。行政も今年度から本格的に地域包括ケアシステムの土台づくりを進めている。中村委員の言う通り、いろいろな団体が地域の為に支え合いの活動を行っている。ただ、横の繋がりが出来ていないところがあり、そこを横の繋がりを作り、困っている人の情報を誰かが得て、その情報をどこに伝えればよいか、地域で自然に出来るようなシステムを作ろうということ。</p> <p>今年度、区民にアンケート調査を行っている。また、この地域には、どのような資源があるのか記した、地区資料を作成する予定である。出来上がり次第、皆様にお示しさせていただき、この地域はこんな資源があると良い。この地域の取組をどのように繋げていけば良いのかなど、この場で話し合っていきたい。その内容は、多摩区地域包括ケアシステム推進本部会議でも共有させていただき、地域・機関・行政の取組を上手くミックスし、地域の中で支えられるシステムを作っていきたい。そのために、この会議の中で、様々な地域活動を行っている皆様から、貴重な意見をいただきたく、本会議を発足した。今後、行政からも積極的に情報提供をさせていただきたい。</p>
青木委員	<p>このような会議では、出席した委員が所属団体に持ち帰り、情報を周知するのか通例である。これまでの、縦串の業務に横串を通すような、総合受付的なものをつくり、必要な部署に情報を提供するような話はしている。</p> <p>各委員は、代表としてそれぞれ説明していると思うが、中には会議で聞いて終わりとする委員もいるかもしれない。私も近いかもしれないが。今後は、会議の内容は所属団体に持ち帰り、地域の情報を本会議の場で提供する必要がある。</p> <p>また、【資料3】にある市地域包括ケアシステム推進本部とは、市にも団体があるのか。</p>

発言者	発言要旨
中村区長	【資料3】の下に市レベルと記載があり、その右下に市地域包括ケアシステム連絡協議会がある。これは、地域の皆さまが市のレベルの中で意見交換等を行っている会議である。それと併せて、区レベルでも同様の会議を作っていこうというもので、各区で立ち上がり始めている。
青木委員	これからの話ということか。
中村区長	市レベルのものは今年度、既に立ち上がっている。
青木委員	市レベルにもこのような会議があるのか。
中村区長	保健・医療・学識経験者等が委員として出席し開催している。
青木委員	この資料を見ると、本会議の委員と同じレベルの市民が出席しているように見える。つまり、市地域包括ケアシステム連絡協議会に、区の団体関係者が出席しているように見えるが違うのか。
中村区長	そうではない。本会議で話し合われたことは、各所属団体に持ち帰り、お伝えいただくと、今後の会議が活発になるかと思うので、よろしく願いたい。
木澤委員	<p>初めて参加するので場違いな発言かもしれないが、私は「いきいき体操」や運動関係のボランティアを10年近く行っている。区長から先ほど、自助・互助・共助の話や、これから新しく土台づくりを行っていきと話をされたが、多摩区には優れた組織があった。しかし、今回の地域包括ケアシステムの推進にあたり、区役所の体制が変わり、行政のサポートが無くなったために、多摩区全体の連絡協議会が潰れている。</p> <p>このような資源があるのに、なぜ行政は、例えば、市ではいこい元気広場で自助の一環として、寝たきり防止の体操を教え、健康寿命を延ばそうと取組んでいる。しかし、6か月で終わってしまう。その後、その人が自宅で一人で体操を続けられるのか。なかなか難しい。受け皿として、公園体操、いきいき体操、ウォーキングなど多摩区には優れた運動関連のボランティア団体があった。それが行政のサポートがなくなり、実質2団体は委員会活動を止めている。</p> <p>こうした現状は知っているのか。この場で話し合われた内容を、所属団体に持ち帰り話をしてほしいと言っても、現場で動いている人には届いていないし、行政の考え方が理解できない。自助・互助と言うが、予算がないので皆さん自前でやってほしいという風にしか思えない。この会議では相応しい話とは思わないが、今回委員を引き受けた動機は、そこにある。中村委員の言う通り、いろいろな資源はあるが、このような会議をやっても、なかなか横の連携は難しい。これまで横の連携を取っていたものを、行政が土台からつくり直そうというのは、無駄なのではないか。どのように考えているのか。行政の方が、地域にどのような資源があり、どのように活かすのか真剣に考えて欲しい。</p>
中村区長	この場で説明するのは長くなり、誤解もあるようなので、別の席で担当から改めて説明したい。決して行政が手を引いた訳ではなく、やり方を変えたということである。
山口委員	何地区かに分けてやりますという話も出たが、それはやめましょうという話になった。地域包括支援センターあたりに分けてやりましょうとなった。これのできるかはこれからの話。今後、このような場で話し合い、行政にも考えてもらうということ。
柴原座長	そのようご意見をいただいたので、行政はよろしく願います。

発言者	発言要旨
有北委員	本会議の中で、多摩区地域福祉計画についての審議をしながら、地域包括ケアシステムの話しをしていくのか。それで、回数が増えているということか。
柴原委員	行政から説明をお願いしたい。
事務局	<p>本会議は、地域包括ケアシステムの情報交換・情報共有、横の繋がりづくりについて、説明させていただいた。区の地域福祉計画については、各区における地域包括ケアシステムの実行計画として位置付けをしており、地域福祉を論ずることは、地域包括ケアシステムの推進に繋がるものである。</p> <p>来年度、第5期を策定する予定であるが、未だ本庁部署から具体的な指示等は示されていない。実際は、市の方向に沿い、新しい多摩区福祉計画を策定する。平成29年度末までは、既存の計画に沿い、地域包括ケアシステムの情報交換と、この後説明する多摩区地域福祉の事業評価・進捗管理の2つの議題で進めていくと思われる。平成30年度からは、一本化して地域包括ケアシステムの推進に向けた、地域福祉計画の進行管理の性格も併せ持った会議になると思われる。</p>
有北委員	要するに、多摩区地域福祉計画は地域包括ケアシステムの実行計画であるのか。
事務局	福祉計画は地域包括ケアシステムの推進の実行計画との位置付けがされており、具体的には平成30年度の第5期多摩区地域福祉計画期間からになる。
有北委員	分かった。
中村委員	【資料5】スケジュール表の平成29年度には、支え合いのまちづくり推進会議名がなく推進会議だけ記載されている。本会議は今年度だけなのか。
事務局	<p>今後も続いていく。スケジュール表の平成29年度の記載は、平成26年度の第4期福祉計画の策定スケジュールを仮置きし、イメージとして記載している。そのため、目安として見ていただきたい。</p> <p>今年度は10月に第1回を開催し、3月に第2回を開催する予定である。</p>
有北委員	平成29年度からは、推進会議と記載してある箇所は、支え合いのまちづくり推進会議ということか。
中村委員	つまり、多摩区地域福祉計画推進会議は無くなったのか。
事務局	多摩区地域福祉計画推進会議は、新たな支え合いのまちづくり推進会議に発展的に解消させていただいた。
山口委員	来年度のことは、今後、行政から話があるのか。
事務局	<p>来年度のスケジュールについては、未だ本庁の具体的な指示が無いので、詳細を説明できない。</p> <p>3月の本会議では、もう少し詳しい話ができると思われる。</p>
柴原座長	他に質問はないか。なければ、次の議題をお願いしたい。
議事（2）地域福祉計画の進行管理について	
事務局	【地域福祉計画の進行管理について説明】
柴原座長	何か質問はあるか。
有北委員	この事業管理シートは、いつ行政から提出されるのか。
事務局	当シートは、次回の本会議に提出させていただく。
有北委員	スケジュール表にある、第2回支え合いのまちづくり推進会議の場ということか。
事務局	そのとおりである。次年度以降は、年度当初と年度末に提出する予定である。

発言者	発言要旨
柴原座長	その他の質問はないか。
有北委員	先ほど話のあった、区民へのアンケート調査や地区資料の結果はいつ出るのか。
事務局	<p>アンケート結果については、今年の夏、区民12,000世帯にお願いをした。現在回収と分析を行っている。ただ、件数が多く通常は2,000世帯に行くが、今回は6倍と件数が多く、回収や仕分け、分析には時間を要する。当初は、今年度中に区のホームページへの掲載や、本会議で委員に報告する予定であったが、来年5月頃に集計結果をご提示したい。つまり、来年度開催する第1回支え合いのまちづくり推進会議でご提示したい。</p> <p>地区資料については、委託業者と作成作業を行っている。今年中には暫定版が出来上がる予定であるが、修正作業を行う必要があり、今年度中には完成させる予定である。ですので、3月に開催予定の第2回支え合いのまちづくり推進会議開催に間に合えば、委員の皆さまにご提示したいと考えている。</p>
白石委員	<p>事業管理シートについて、各計画に基づき各事業ごとに、内容・進捗状況・事業評価・達成状況等を客観的にシートにまとめることは、分かりやすい。達成状況の箇所は、あくまでも行政の自己評価について評価をする形なのか。地域包括ケアシステムの推進ということであれば、事業を実施した際、地域住民からどのような反応があったか。また、事業を企画した結果、どのような成果が地域に出てきたかなど、シートに盛り込めたらなお良いと思う。</p>
柴原座長	事業評価に関するこの質問について、事務局から何かあるか。
事務局	今回ご提示した事業管理シートは、たたき台として提示しており、ご意見いただいた内容については、極力シートに盛り込み、次回の会議で提示したい。
柴原座長	他には質問はないか。無ければ、【議題3】その他について事務局からお願いしたい。
議事（3）その他について	
事務局	その他資料について説明
柴原座長	何か質問はあるか。無ければ議事案件は以上であり事務局にお返りする。
事務局	<p>柴原座長議事進行ありがとうございました。</p> <p>次回の本会議開催日程については、後日日程調整をさせていただく。</p> <p>皆様、本日はお疲れ様でした。</p>